

- 単元目標**
- ・積極的に挨拶をしようとする。
 - ・英語での挨拶や、自分の名前の言い方に慣れ親しむ。
 - ・世界には様々な言語があることを知る。

評価 本単元では、児童がはじめて外国語に出会うことから、原則として評価結果を記録しないが、目標に向けての指導は行う。

表現 Hello. My name is ～. What's your name? Thank you. Goodbye.

単元計画（2時間）

時	目標と主な活動	評価			
		コ	慣	気	
1	<p>英語での挨拶や、自分の名前の言い方に慣れ親しむ。</p> <p>○「どんなことを勉強するのか。」表紙を見て、どのような場面かを想像して発表する。</p> <p>【L1】誌面 p. 2, 3 を見て、知っている英語を言う。音声教材を聞いて、登場人物の名前と挨拶の表現を知る。 () に名前を記入する。</p> <p>○「あいさつをしよう。」友達と挨拶をし、名前を言う。</p> <p>【P】名刺を作る。</p> <p>【C】“Hello!”</p>				本時では、原則として評価結果を記録しないが、目標に向けての指導は行う。
2	<p>世界には様々な言語があることを知り、積極的に英語で名前を言って挨拶をしようとする。</p> <p>○「あいさつをしよう。」友達と挨拶をする。</p> <p>【L2】音声教材を聞いて、世界の挨拶を知る。</p> <p>【L3】音声教材を聞いて、外国の友達の名前を知る。() に名前を記入する。</p> <p>【C】“Hello!”</p> <p>【A】教室内を歩いて回り、出会った友達と挨拶をし、名刺を交換する。</p>				本時では、原則として評価結果を記録しないが、目標に向けての指導は行う。

1-Lesson 1 Hello! 1/2時間

目 標 英語での挨拶や、自分の名前の言い方に慣れ親しむ。

準 備 教師用絵カード（登場人物）、ワークシート（名刺カード：切り離しておく）、デジタル教材、（振り返りカード）

児童の活動	指導者の活動	準備物
○「どんなことを勉強するのかな。」 ・表紙を見て、どのような場面かを想像して発表する。	・“Hi, friends! 1”の表紙を見て、どのような場面かを想像し、誰がどんなことを言っていると思うかを尋ねる。	デジタル教材
【Let's Listen 1】 p. 2, 3 ・誌面を見て、知っている英語を言う。音声教材を聞いて、登場人物の名前と挨拶の表現を知る。（ ）に名前を記入する。	・誌面 p. 2, 3 を開け、誌面を見て知っている色、衣服などの英語を自由に発表させ、誌面に興味をもたせる。 ・音声教材を聞いて、登場人物の名前を聞き取らせ、（ ）に名前を記入させる。 ・手前の2人、中段の3人、奥の2人の挨拶の違いに気付かせるようにする。	教師用絵カード（登場人物） デジタル教材
○「あいさつをしよう。」 ・指導者の挨拶に答える。 ・友達と挨拶をする。 ・状況設定にふさわしい挨拶を言う。	・数名の児童と挨拶をする。 ・周りの友達と挨拶をさせる。 ・おなかがすいたとき、眠いとき、楽しい気分ときなどの hi, hello の言い方を工夫して言わせる。	
【Let's Play】 p. 7 ・名刺を1枚作る。 ・教室内を歩いて回り、出会った友達に名刺を見せて、挨拶をする。	・あらかじめ作成しておいた自身の名刺を見せ、数名の児童に挨拶をして名刺を渡す。 ・児童にも名刺を作ろうと呼びかけ、名刺を作らせる。 ・名刺を見せて、友達と挨拶をさせる。	デジタル教材 ワークシート（名刺カード）
【Let's Chant】“Hello!” p. 6 ・リズムに合わせてチャンツを言う。名前を自分の名前に替えて言う。	・音声教材を聞かせ、一緒に言う。	デジタル教材
・本時の活動をふり返る。振り返りカードに記入する。 ・挨拶をする。	・児童の英語を使おうとする態度でよかったところをほめる。 ・挨拶をする。	振り返りカード

評価

原則として、評価結果を記録しない。

留意点

次時に使用する名刺は、休み時間などを利用して各児童に作らせておく。

<p>1-Lesson 1 Hello! 2/2 時間</p> <p>目 標 世界には様々な言語があることを知り、積極的に英語で名前を言って挨拶をしようとする。</p> <p>準 備 教師用絵カード (国旗), デジタル教材, (振り返りカード)</p>

児童の活動	指導者の活動	準備物
<p>○「あいさつをしよう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導者と挨拶をする。 ・友達と挨拶をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体に挨拶をし、個別に数名の児童と挨拶をする。 ・周りの友達と挨拶をするよう告げる。 	
<p>【Let's Listen 2】 p. 4, 5</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音声教材を聞いて、それがどこの国の挨拶か考える。 ・誌面を見て、気付いたことや知っていることを発表する。 ・世界の言葉で挨拶をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音声教材を聞かせ、どこの国の挨拶か予想させる。 ・誌面の写真や国旗の絵を見て、気付いたことや知っていることを尋ねる。 ・世界の挨拶から1つ選んで、教室内を歩いて回り出会った友達と挨拶させる。 	<p>教師用絵カード (国旗)</p> <p>デジタル教材</p>
<p>【Let's Listen 3】 p. 6</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3人の出身国を、誌面 p. 4, 5 をヒントに答え、音声教材を聞いて、3人の名前を () に記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・3人がそれぞれどの国出身かを尋ね、音声教材を聞かせ、それぞれの名前を尋ねる。 ・マリアとアレクシーの挨拶から、初対面の場合など、自分の名前を言ってから相手の名前を尋ねる等挨拶の仕方を確認する。 	<p>デジタル教材</p>
<p>【Le t's Chant】 “Hello!” p. 6</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チャンツを言う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音声教材を聞かせ、一緒に言う。 	<p>デジタル教材</p>
<p>【Activity】 p. 7</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教室内を歩いて回り出会った友達と挨拶をして、名刺を交換する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・代表児童と挨拶をして、名刺交換をするデモンストラーションをする。 ・出会った友達と挨拶をして、名刺を交換するよう告げる。 ・もらった名刺を紹介させ、誌面 p. 7 に貼らせる。 	<p>デジタル教材</p> <p>名刺(各児童が作成)</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・本時の活動をふり返る。振り返りカードに記入する。 ・挨拶をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の英語を使おうとする態度でよかったところをほめる。 ・挨拶をする。 	<p>振り返りカード</p>

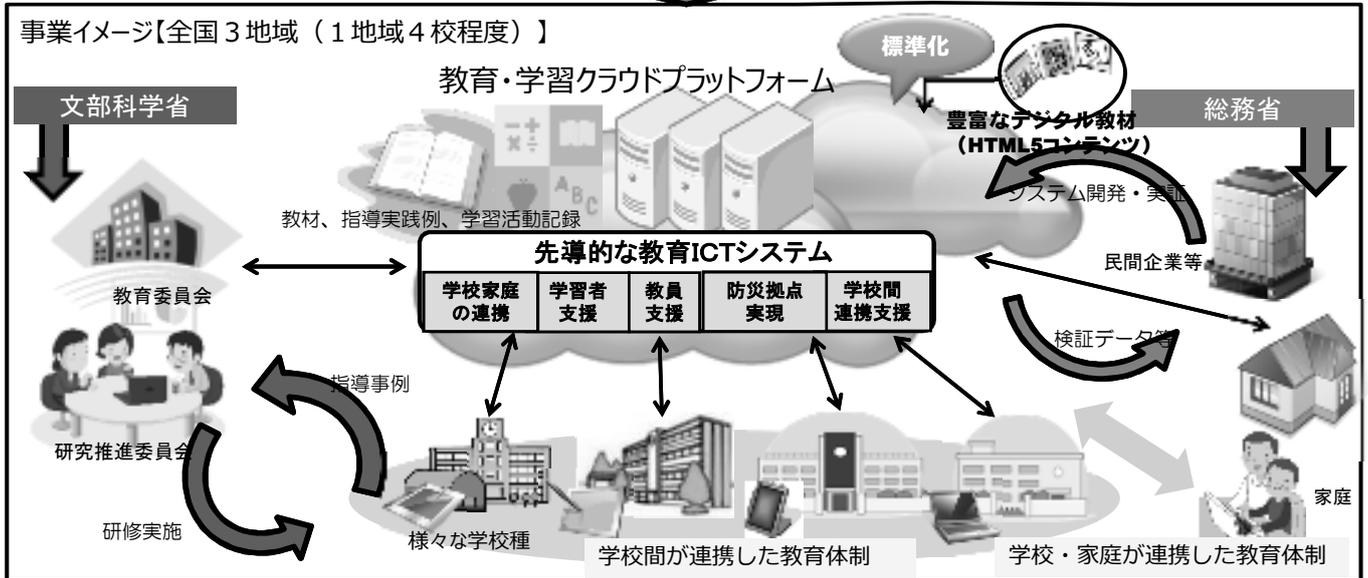
評価

原則として、評価結果を記録しない。

先導的な教育体制構築事業（先導的教育システム実証事業）

総務省と文部科学省が連携し、情報通信技術を活用した新たな学びを推進するため、クラウド等の最先端技術による、学校間、学校と家庭をシームレスにつないだ先導的な教育体制を構築に資する研究を実施

文部科学省	総務省
先導的な教育体制構築事業（新規：1.2億円）	先導的教育システム実証事業（新規：5.5億円）
異なる学校間及び学校と家庭との連携を深め、新しい学びを推進するための指導方法の開発、教材・指導実践事例等の共有 など	クラウド等の最先端技術を活用した、低コストで多種多様な端末に対応した教育ICTシステムの実証、普及モデルの技術的標準化 など



情報通信技術を活用した教育振興事業

（新規）
平成26年度予算額 288百万円

事業の内容

ICTを活用した教育の推進を図る上で、教育効果の明確化、効果的な指導方法の開発、教員のICT活用指導力の向上方法の確立が不可欠であり、これらの課題を解決するため実証研究を行うとともに、デジタル教材等の充実や、児童生徒の情報活用能力に関する調査研究等を実施する。

ICTを活用した教育の推進に資する実証事業

【予算額】163百万円

◆ ICTを活用した教育の推進を図るための課題を整理

ICTの活用による教育効果や測定指標の明確化、ICTを活用した指導方法の開発、及び教員のICT活用指導力向上体制の構築のため、以下の実証研究を行う。

- ① ICTを活用した教育効果の検証方法の開発
- ② ICTの活用が最適な指導方法の開発
- ③ 教員のICT活用指導力向上方法の開発

情報教育の推進等に関する調査研究

【予算額】33百万円

◆ 児童生徒の情報活用能力に関する調査の開発・実施

- ① 小中学校における調査結果の分析
- ② 調査問題の解説、指導改善事例をまとめた指導資料の作成、配付
- ③ 高等学校段階における情報活用能力の実態把握
 - ・調査問題、質問紙調査等の作成
 - ・予備調査の実施

ICTを活用した課題解決型教育の推進事業

【予算額】92百万円

<デジタル教材等の標準化> 87百万円

◆ デジタル教材等に求められる機能の整理、ルールの策定

デジタル教材等を多様な情報端末において利用可能とするとともに、デジタル教材等による学習の過程や成果を記録し、それらを活用した学習活動ができるよう、デジタル教材等に求められる機能の整理、ルールの策定などを行い、デジタル教材の製作・流通を促進する。

<情報教育指導力向上支援> 5百万円

◆ 初等中等教育段階からのプログラムに関する教育の推進

初等中等教育段階からのプログラムの作成に関する指導の実態把握や指導事例の収集等を通じて、授業で活用できる教員向け指導手引書を作成するなど、教員の情報教育指導力向上に関する実践的かつ効果的な取組を支援する。

教育用コンピュータ、電子黒板機等の整備の推進及びICT支援員の配置等の充実

【平成26年度地方財政措置額：1,678億円】

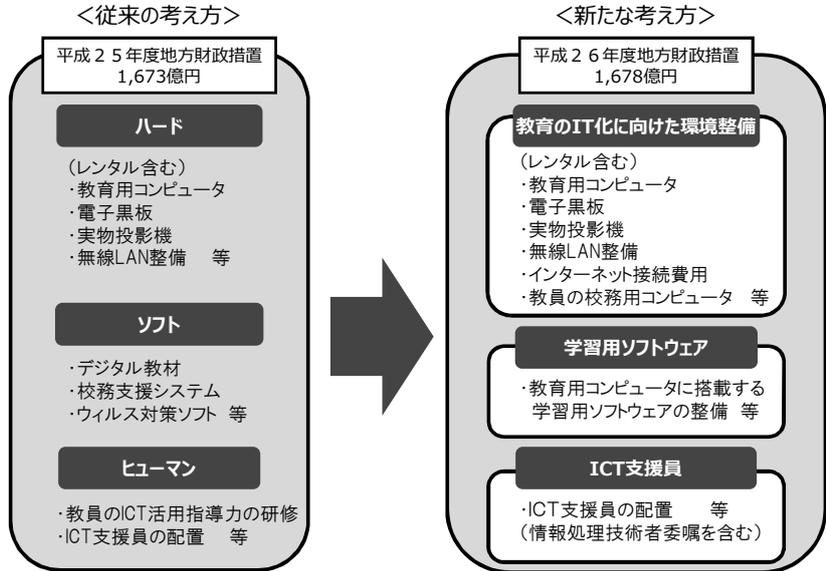
21世紀にふさわしい学校教育を実現できる環境の整備を図るため、第2期教育振興基本計画(平成25年6月14日閣議決定)で目標とされている水準の達成に必要な所要額を計上した「教育のIT化に向けた環境整備4か年計画(H26～29年度)」に基づき、平成29年度まで単年度1,678億円(4年間総額6,712億円)の地方財政措置を講じる。

第2期教育振興基本計画で目標とされている水準

教育用PC1台当たりの児童生徒数3.6人、電子黒板・実物投影機を各普通教室に1台配備、超高速インターネット接続率及び無線LAN整備率100%、校務用PC教員1人1台、教育用ソフトやICT支援員等を配置。

教育のIT化に向けた環境整備4か年計画(H26～29年度)の所要額イメージ

- ・教育用コンピュータ・・・不足台数約147万台の新規導入及び既存分約191万台に係るリース費用
- ・学習用ソフトウェアの整備・・・教育用コンピュータ新規導入・更新に伴うもの
- ・電子黒板・・・不足台数約40万台の整備及び既存分約1万台の更新に係る費用
- ・実物投影機・・・不足台数約33万台の整備及び既存分約1万台の更新に係る費用
- ・無線LANの整備・・・未整備約38万教室に係る費用
- ・教員の校務用コンピュータ・・・約95万台のリース費用
- ・その他・・・インターネット接続費用、ICT支援員の配置費用等



※ウィンドウズXP搭載パソコンの更新などのセキュリティ対策を含め、平成26年度も地方財政措置の一層の活用が求められています。